苦労と難儀はちがいます

松下幸之助の妻・むめの伝

荒川 進

荒川 進

苦労と難儀はちがいます

松下幸之助の妻・むめの伝

苦労と難儀はちがいます
——松下幸之助の妻・むめの伝

一九八五年十一月十五日　第一刷発行
一九八六年　一月十六日　第二刷発行

著者——荒川　進

定価——一二〇〇円

装幀——松永　昭

©Susumu Arakawa, 1985 Printed in Japan

発行者——野間惟道

発行所——株式会社講談社
東京都文京区音羽二丁目一二—二一　郵便番号一一二
電話　東京〇三—九四五—一一一一（大代表）

印刷所——慶昌堂印刷株式会社

製本所——藤沢製本株式会社

◉落丁本、乱丁本は小社書籍製作部宛にお送りください。
送料小社負担にてお取替えします。

ISBN4-06-201930-2　(0)　　(学D)

苦労と難儀はちがいます

――松下幸之助の妻・むめの伝

装

幀

*

松

永

昭

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

目　次／苦労と難儀はちがいます

口　絵　巻頭

第一章　幸之助夫妻の家業――　9

松下王国はむめのと幸之助の〝家業〟である　10
奥さん、ほんまにありがとう　18
家で仕事の話を求めたら　26
働く男はんの頭に　34
もはや夫婦喧嘩も遠い昔ですねん　41
主人の年収は新聞で　47

第二章　むめのと結婚――　53

お見合いの舞台は芝居小屋　54
お嫁さんはだれでもよかったですが……　59

華燭の典を挙げて　66
気づかれぬようにお針の内職　71
おい、おしるこ屋でもはじめようか　77
いぶし銀のような輝き　83

第三章　〝神様〟夫妻の生い立ち――　89

松下の〝聖地〟を訪ねて　90
旧家の没落から始まった幸之助の旅立ち　96
船場大学を出たんや　100
むめのの生地は淡路島　109
松下電気器具製作所の神輿を担いだ三兄弟　116

第四章　幸之助夫妻独立す――　123

ばら色の夢は打ち砕かれた　124

日々の糧すらない夫婦生活のなかで　129
質屋通いは商売の資本づくりや　134
壁に突き当たっても、なおかつ努力の精神　138
アタチンが大当たりで、事業は順調な船出　143
病気がちな主人に代わり経営の采配　149
やっと迎えた絶頂期　156
むめのとボンさんと　163
経理の仕事をし、店員の心をつかむ　168

第五章　むめのの内助の功――　175

晴天の霹靂……　176
社員運動会に登場した幸之助夫妻のお見合い光景　182
宗教には、優れた経営の原点がある　187
会社の発展は松下家の隆盛につながる　194

松下発祥の地・大開町の隣人たち　200
事業から本来の〝妻の座〟へ　206
部長婦人を対象に会社を理解する会の設立　211
ひとり娘・幸子の結婚　217
財閥家族、公職追放……。戦後、襲った松下家の大ピンチ　222
泥棒に殺されんよう、枕元におかねを置いて寝ましたわ……　227

第六章　社員が見たむめの像――　235

むめのの腐心は、店員の帰属意識の高揚　236
叱ることと怒ることとは違うのを教えられました　242
販売店主のYシャツまで洗う〝持て成し上手〟　247
ご主人を大切にしなはれや……　252

第七章　お手伝いさんが見たむめの像――　257

使うのでなく主婦の仕事を覚えてもらう　258
先生を呼び女の作法教育　264
たみちゃん、目薬注してんか……　270
主人の邪魔にならんように　275
ヘアーネットで髪をまとめた和服姿　280

第八章　販売の松下を支える家業意識――　287

私、商売が嫌いですの。喧嘩はもう終わりや　288
販売店は家業だ。だから女房の心をつかむ必要がある　292
事業家の妻としての〝内助の功〟を綴ったむめのの手紙　297

松下家の閨閥地図　304

あとがき　306

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

第一章　幸之助夫妻の家業

松下王国はむめのと幸之助の〝家業〟である

書かれたことのない「むめの伝」

松下むめの――。松下電器産業株式会社相談役・松下幸之助の妻。夫・幸之助は、経営の神様〝今太閤〟と、今日わが国において、いや、世界中から立志出世伝中の傑物（けっぶつ）として最大の尊敬と賞賛をうけているにもかかわらず、妻・むめのについてはほとんど何事も語られていない。

「これまで何遍とのう、新聞やら放送のおかたから、私の内助の功ちゅうもんをお話せえいうて、たんとおっしゃってみえましたけど……。内助の功てなもの、とんとございません、考えたこともおへんがな。お話することて、なんにもあらしまへん。世間の奥さんがたが、どなたもなさっておいやすことを、わたしもしてきただけですよって、改まって何をお話させてもろうたらよろしいやら……」

むめのが、ひたすらマスコミからの取材を断わり続けてきた理由である。しかし、夫・

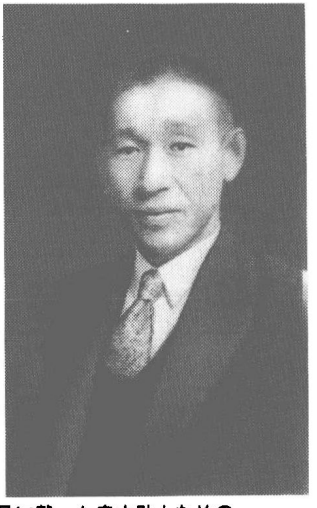
幸之助を助け、天下の松下電器をつくりあげてきた賢妻であることは、世間周知の事実である。

美しく老いる――。むめのについても、この言葉はふさわしい。現在八十九歳。しかし、米寿を越えた年齢にはとても見えない。十数歳は歳若く、発剌としている。精神年齢も壮婦人である。ネットでまとめあげた髪が、和装に似合ってよく映えている。そして、歳には無関係な輝やきのある張りのある声――。今もって老人特有のもぞもぞした口調は、むめのにはない。

身長一六〇センチ、体重はやや太り気味、五五キロはあるという。小柄の女性が多い明治生まれの女性のなかでは、珍しく立派な体格である。

九十歳のせいばかりでなく身長一七〇センチ、体重五〇キロの夫・幸之助のほうが小さく見えるほどである。

時折り街でむめのに会う近所の女性がいっていたとおり、どの街の通りでもよく見かける気さくなおばあさん、人生の悩みごとを安心して相談できる、いかにも親しみやすい婦人、といった感じである。それでいて、〝経営の神様〟の妻の座を守り続けてきている威厳を風格ににじませている。



▲昭和11年『主婦之友』新年号に載った幸之助とむめの。
幸之助42歳，むめの30歳後半時の写真

おそらく、マスコミへの登場回数が日本一多い、といってもよい幸之助を夫に持っているにもかかわらず、むめの自身はもとより、彼女の身辺雑記にいたるまでマスコミに登場したのは、むめのの長い人生のなかで、わずか、二回だけである。それも、今より数十年前のことである。

妻としての活躍ぶりを初めて紹介したのは太平洋戦争前の昭和十一年のとき。二回めは高度成長時代真っただなかの昭和四十六年のこと。いずれも婦人雑誌の特集記事であった。

近年に入っては、むめのを語った記事はまったく見ない。あまりにも知られている立志出世伝中の夫妻にもかかわらず、むめ

のについては、松下電器・経営陣の一部の人々か近親者を除き親しく接した人は少ない。ひたすら、沈黙を守り続けている女性である。だから幸之助は、早く妻をなくした独身者と思い込んでいる人々は多い。それほどむめのは、寡黙を信条としている、ともいえる。

世界の松下は〝家業〟である

幸之助の率いる松下電器グループといえば、日本のＧＮＰ(国民総生産)の一パーセント以上を占める売上実績を誇る、わが国有数の優良会社である。

売上高　＝　四兆七千二百七億円。

税引き利益　＝　六千六百八十四億円。

これらの数字は、昭和五十九年十一月における松下電器グループ、八十三社の連結決算である。八十三社には、松下電器をはじめ松下電子工業、松下通信工業、松下電子部品、松下住設機器、松下産業機器、松下電池工業、松下電器貿易、日本ビクター、九州松下電器など、一部上場九会社、二部上場三会社の優良関連会社が含まれる。

松下グループの社員数は、合わせると十二万五千人にも達する。このほか、二万七千の販売店を加え、松下グループになんらかのかかわりを持ち、生計を立てている社員とその

家族は、ゆうに百万人を越えるといわれている。

天下の松下王国といわれるのも、これらの数字をながめるだけで十分に察しのつくところだ。だが、いかに巨大王国になろうとも、この会社には哲理ともいうべき不変の理念がある。理念を、言葉を変えていえば、「創業に至るまでの夫妻の苦闘の〝事実〟」といっていいだろう。

それは、「幸之助とむめのの家業」である「事実」だ。風呂へいく小銭もない、といった貧乏を絵で描いたような生活のなかから、夫妻して興した松下電器を、艱難辛苦の共働きのもとに、大きく羽ばたかせた今をときめく王国に、経営をつくりあげた礎を築き上げたのは、まぎれもなく夫婦二人の「家業」である。

今日、幸之助の思想や理念、そして言動は、社会のオピニオン・リーダーとして国民の間に社会的共鳴にまで達している。その結果として、「ナショナル」という商品ブランドのイメージを、人々にますます強く浸透させ、高める相乗効果を生んでいく社会現象となって発展してきている。

汗と涙の努力の軌道を語った数々の幸之助伝は、現代の成功講談、人情講談として根強い人気を持ち続けている。逆境をものともしない、人間臭い立志ぶりが、読む者の心を強

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com